

山武市立小中学校の規模適正化・適正配置基本方針の一部改定（案）への意見等の概要と市の考え方

No.	意見等の概要	市の考え方
1	教員のゆとり、余力を少しでも増やせば、より質の高い教育と生徒に寄り添う時間が持てると考える。そこで、教員の負担軽減に向けた取組みを提案する。 ①基礎学力という部分については、YouTubeなどに良い動画がたくさんあるので、ネット動画を利用することで、先生の負担が減るのであれば、活用すると良いと思う。その分、総合学習、道德教育、探究的な学びなど、先生にしか出来ない時間に回せる。 ②賃金について、市の裁量で、教員に対しインセンティブ的な事できるのであれば、検討したら良いと思う。報酬UIは直接負担軽減には、ならないが、教職への関心・意欲に繋がると思う。例えば、市の条例を定めるなどして、民間で言う36協定のようなものを作り、部活動による休日出勤については、割増日当を支給するなど。 ③保護者、ボランティアの協力強化として、部活動の運営は、保護者会主体で行う。日々の活動は、生徒主体。朝の交通指導は、保護者ボランティア主体。教員が行っている作業で、一般事務としてこなせるものは、事務員を増やしてでもシェアする。	小中学校の教員は、法令により県教育委員会が任命し、県から給料等が支払われており、その待遇等も県で細かく定められています。 市教育委員会としては、教育環境を充実させ、教育課程編成の支援を行うなど、教員の負担軽減に努めてまいります。いただいたご提案は、貴重なご意見として承ります。
2	部活動について、全国的に地域移行の流れになっていることを、とても残念に思う。山武市の教育理念である「感動や相手を思いやる心を育み自立した生徒」を育てるのに、最も必要な場所（活動）と思うからである。 山武市においては、国・県の動きを注視しつつも部活動存続を模索していただきたい。生徒数の減少は、意義ある部活動を行う上で、あまり影響は無いと思う。（意義とは、感動や相手を思いやる心、自立や自尊心を育むなど）	部活動については、教員の勤務時間の適正化を図るため、現在、休日は、中学生の活動の機会を担保しつつ、教員だけが指導しなくてもよい仕組みを整えているところです。これについては、国や県の動きも注視していく必要があります。貴重なご意見として承ります。
3	小学校の合併によって、子ども達がバス通学することは、子ども達にとってとても負担が大きいと思う。	学校統廃合により遠距離通学となった児童生徒の通学バスについては、保護者からの要望もあり運行しているものです。 今後も通学支援策を講じる際には、保護者や地域の皆様、学校等と協議・検討してまいります。
4	地域の小学校が無くなることによって、子育て世代が他の地域に出て行き、過疎化が益々進むと思う。 学校の合併によって、学校数を減らすのではなく、若い世代が働ける職場を増やす努力をすることが、山武市として一番大切なことだと考える。	学校は地域コミュニティの核として地域とも深いつながりがあることは十分理解しています。貴重なご意見として承ります。